

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成 27 年度 高松市地球温暖化対策実行計画推進協議会
開 催 日 時	平成 27 年 11 月 17 日 (火) 13 時 30 分 ~ 15 時 20 分
開 催 場 所	高松市役所 3 階 32 会議室
議 題	(1) 会長・副会長の選任について (2) 2012 (平成 24) 年度温室効果ガス排出量等について (3) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出席委員	16 人 嘉門会長、古川副会長、秋山委員、泉川委員、大三島委員、片山委員、勝浦委員、上田委員、熊野委員、合田委員、鈴木委員、高橋委員、中島委員、中山委員、平木委員、山下 (幸) 委員
欠席委員	2 人
傍 聴 者	2 人 (傍聴席 : 10 席)
担 当 課 及 び 連 絡 先	環境総務課地球温暖化対策室 (TEL 0 8 7 - 8 3 9 - 2 3 9 4)

審議経過及び審議結果
<p>協議会を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。</p> <p>次のとおり、協議会を開催した。</p> <p>(1) 会長・副会長の選任について 高松市地球温暖化対策実行計画推進協議会設置要綱第 4 条の規定により、会長・副会長を選出した。</p> <p>会 長 嘉門委員 副会長 古川委員</p> <p>(2) 2012 (平成 24) 年度温室効果ガス排出量等について (事務局より説明)</p> <p>以後審議 (委 員)</p> <p>資料 4 ページ下段の CO₂ 排出量の部門別内訳について、自家用車を使用した際の排出量は民生家庭部門ではなく、運輸部門に該当するという認識でよろしいか。 (事務局)</p> <p>自家用車の排出量は運輸部門に該当する。 (委 員)</p>

審議経過及び審議結果

高松市の民生家庭部門の割合が全国と比べると、非常に高くなっているが、これはなぜか。

(事務局)

これは相対的な要素もあり、高松市の場合、産業部門の割合が低いので、相対的に他の部門が高くなっている。

(会長)

資料2 ページ下段のグラフ（基準年比の電力排出係数を用いた場合の温室効果ガス排出量の推移）をみると、基準年や平成23・24年と比べ、平成20・21年の排出量が高い。しかし、上のグラフ（温室効果ガス排出量及び世帯、一人当たり排出量の推移）では、平成20・21年の排出量は他年度と比べ、そこまで高くない。これは、平成20・21年の電力使用量が高かったことを意味しているのではないか。年間電力消費量を6ページに示しているが、平成20・21年の電力使用量が示されていないので、ぜひ、当該年度の使用量を加えてほしい。恐らく、平成20・21年の電力消費量が高く、それ以降は節電が進み電力消費量が減ってきたということになると考えられる。いくら節電・省エネ行動をしても電力排出係数が原因で温室効果ガスの排出量が高く見えてしまうことがある。しかし、節電や省エネは確実に効果があるので、活動は続けていかなければいけない。

(委員)

9ページの「レンタサイクル利用者数」について、レンタサイクルの利用者の多くは観光客ではないかと考えられる。こういった人達のために例えば玄関口である空港などで簡単にレンタサイクルの手続きができたり、スマートフォンなどのモバイルを使って、県外から簡単に予約が出来たりすれば利用者が増えるのではないか。そういったことについて、何か検討はしているのか。

(事務局)

担当課に意見を申し伝えておく。ただ、空港からだとは距離が遠いと思われる。

(委員)

空港で借りるということではなく、空港で手続きをして、実際に借りるのは例えば瓦町など街中で借りるというイメージである。

(委員)

ある調査で聞いたのだが、「エアコンより扇風機を使いましょう」というPRをした時に、エアコンよりも扇風機の方が環境に良いと言った場合よりも、エアコンより扇風機の方がこれくらいCO₂排出量が少なくなるといったほうが効果がある。他にも電力が少なくなるだとか、いくら安くなるだとか色々な表現が考えられるが、一番効果があったのは、この地域の人は何%の人が扇風機を使用しているとPRした場合である。つまり、社会的規範に訴えた方が効果的であるということである。

これをレンタサイクルに当てはめると、電車よりも自転車を使ったほうが安いとか、CO₂排出量が少なくなるといったPRも大事だが、何%の人がレンタサイクルを利用していると訴えたほうが効果的なのではないだろうか。

(委員)

個人的な感想になるが、高松市は自転車が走りやすい街づくりをしているように感じ

審議経過及び審議結果

る。ただ、それを図る指標が「レンタサイクル利用者数」1つしかないのはもったいないと思うので、他の指標を作り、もう少しこういった良いところを図れる指標があってもよいのではないだろうか。

宣伝になるが、中国四国地方環境事務所のほうで「バイクビズ」という自転車走行を推進しようという取組をしているので、ぜひ活用していただきたい。

また、県外から来て感じたのだが、香川では街から外れたような場所や住宅地の真ん中に有名うどん屋があり、県外から来る人はそういった場所に車で行く人が多いと思う。これは非常にもったいないので、せめて人口密集地である高松市からは公共交通機関を利用してもらうようにするか、あるいは自転車を利用してもらうとか、そういったことを推進していったほうがよいのではないか。そのために、うどん屋と公共交通機関、レンタサイクルとがタイアップして、例えば公共交通機関等を利用すればうどんが安くなるといった仕掛けをしてみてもどうだろうか。

(会 長)

指標を増やしてみてもどうかということだが、どういう指標が考えられるだろうか。

(委 員)

例えば、定点観測で、ある地点を通る自転車の数量がどれだけ増えたか量るといった方法が考えられる。

(委 員)

レンタサイクルを観光客が利用するとなると、場所が分かりづらいのではないか。

県外になるが、通り沿いに機械式でレンタサイクルを設置しているところがあった。高松市では、こういったことは検討していないのか。

(会 長)

パリを見てみるとレンタサイクルポートが通り沿いにどこでも置いてあり、乗捨てもでき、非常に使い勝手が良い。また、ICOKA（イコカ）カードなどと連携していれば、観光客はより使いやすいのではないか。

PRもやっているようではあるが、まだまだ不十分である。もっとしつこいくらいPRし続けていかなければ、普及しないのではないだろうか。

(委 員)

自動車に乗っていた人が自転車に乗り換えるようになることはいいことだと思うが、それにより自家用車がこれだけ減ったなど、自動車が減ったことがわかるような指標は作れないのか。

また、高松市は非常に自転車が多い気がする。そのせいで朝の通勤時等は、非常に危ない。自転車を増やすのもいいが、交通マナーを守ってもらうなどの安全性の確保と、受け皿となる駐輪場の整備はしっかりやっていかなければならない。

(事務局)

資料18ページを見てもらうとわかるように、駐輪場の整備や自転車走行空間の確保のための自転車ネットワーク整備方針の見直しを行っているので、さきほどの意見を担当課にも伝え、検討してもらう。

(委 員)

県では、CO₂をどれだけ削減したか、どれだけ節電できたかということが分かるよう

審議経過及び審議結果

に、WEB上で「香川県エネ節電所」というものを昨年度から開設している。これを使うことで、一般の人達にとって分かりづらい「CO₂の見える化」が実現できていると感じる。また、インターネットだけでなく、チラシでも配布しており、PRも夏と冬、年に2回行っている。

(委員)

大型店舗の近くに新駅ができた際、利用率、特に若者の利用率が格段に増えた。そういうものを目の当たりにすると、公共交通機関の利用を増やすにあたり、駅の効果は非常に大きいように感じた。

(事務局)

高松市は鉄道の路線が非常に充実しており、鉄道を活かした街づくりを進めている。三条～太田間の新駅も具体的な完成日までは未定だが、完成すれば、路線バスや高速バスと電車との乗り継ぎも考えられ利便性もよいので、着実に整備を進めていきたい。

(会長)

駅が出来るとその周辺の利便性は大変良くなるが、鉄道で市域全域をカバー出来ていないわけではないので、そういった所はパークアンドライドや鉄道とバスなどで上手くネットワークを組んでいけるよう、JRや琴電と共同でやっていければいいと思う。

(委員)

資料10ページの「ごみのリサイクル率」について、このリサイクルにはどういったものが含まれているのか。

(事務局)

これは市で収集される一般廃棄物の総量うち紙・布、プラスチック、資源ごみの回収量の比率である。この指標の考え方は、基本的に環境省の指標と同じである。

(会長)

リサイクル率が非常に低いのはどうしてか。

(事務局)

原因としては最近、電子化が進み、紙自体を使わなくなってきたこと、また、缶やペットボトルについても出来るだけ資源を使わないようにするため、だいぶ薄くなっていることなどからリサイクル率が下降気味になってきていると考えられる。

(会長)

それは、排出量自体も減っているということになるので、率で見るとリサイクル率は上がっていると考えられるのではないか。

(委員)

都市の規模にもよるが、リサイクル率20%というのは決して低いものではない。ただし、リサイクル率は全国的に年々向上しているので、安心はできない。

(委員)

紙ごみを可燃ごみとして出している場合がある。いま一度分別の仕方について周知徹底する必要があるのではないか。

もう一点、資料20ページのレジ袋の削減について、今どのようになっているのか。

(事務局)

昨年度、高松市衛生組合の協力を得て、モデル的に雑紙の回収を行った。その結果、

審議経過及び審議結果

可燃ごみと紙ごみの分別があまり出来ていないということが分かった。それを受け、今年度広報誌等を通じて、分別方法の周知を行った。このPRについては、今後とも継続して行っていきたいと考えている。

また、レジ袋の削減協定を締結している事業者は12業者あり、レジ袋の持参率は年々微増ではあるが増えている。協定事業者の数を増やしていくために、大手スーパーなどに依頼してはいるが、なかなか難しいところもある。今後とも交渉は続けていきたい。

(会 長)

レジ袋の有料化等を含めて検討してみてもどうだろうか。

(委 員)

家のリフォームで断熱化や窓の二重サッシをした時などの助成金はないのか。

(事務局)

他市の状況を見ると、北海道や北陸など寒い地方はそういった助成金があるが、西日本はあまりない。本市にとって、こういったものが温暖化対策に効果的な施策なのか断熱化等の助成金も含めて、検討したい。

(委 員)

クリーン作戦の実施場所について、庵治や空港通りなど、市内から見ると車でないと行けない場所が多く、クリーン作戦をするのに車を使うのは抵抗があるという意見を聞いたことがある。もう少し、栗林公園や玉藻公園などといった近場で実施してみてもどうだろうか。そこで環境の出前教育などもしてみてもどうだろうか。

(事務局)

もともとクリーン作戦は郊外の不法投棄が多い場所で始めたのがきっかけなので、ご指摘の通り便利な場所ではやっていない。今後検討はしていきたい。

また、大規模ではないが身近なところでも環境美化活動を行っており、衛生組合連合会などで定期的に河川や道路を清掃してもらっている。それに対して、市としては助成を出している。身近なところでの環境美化活動は行っており、それに対しての支援もさせてもらうので、検討していただければと思う。

(委 員)

この資料を見て感じたことは、これだけの施策をやっているにも関わらず、市民にそれが伝わっていないということである。もう少しPRをしていくことが大事である。

また、大人だけでなくこれからの世代である子供達にもしっかり環境教育を進めていって欲しい。

(会 長)

本日の会議は、これをもって終了する。

以 上